

# 一般国道2号笠岡バイパス盛土変状対策検討会（第1回） 議事概要

1. 日時 : 令和6年7月11日（木）15:30～17:00
2. 場所 : サンライフ笠岡 第1研修室
3. 出席者  
◎西山 哲 岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域 教授  
佐藤 丈晴 岡山理科大学生物地球学部生物地球学科 教授  
松岡 弘久 国土交通省中国地方整備局道路部特定道路工事対策官  
<事務局> ※敬称略 ◎会長  
国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所

## 4. 議事

- ・規約について
- ・盛土変状箇所の報告
- ・現地確認

## 5. 議事概要

- ・盛土に変状があった箇所について、現地状況及び地質の確認を行った。
- ・盛土に変状があった箇所は、側道側は地盤改良が施工され、排水路側は水路に近接している現地状況であった。
- ・設計概要及び施工状況について確認し、今回の変状発生につながる要因を含んでいないことを確認した。
- ・今回の調査により、地盤改良体下層の深い位置に木質・有機物などを多く含む軟弱な地盤が堆積していたことが分かった。さらに、水路部下層の沖積粘性土（Ac層）がより軟弱であったことが判明し、地盤改良杭の傾倒が生じてしまい、結果として盛土変状に繋がったものと推定される。
- ・今後、具体的な対策工法について検討を行う。



【写真①】 現地確認の状況



【写真②】 検討会の状況

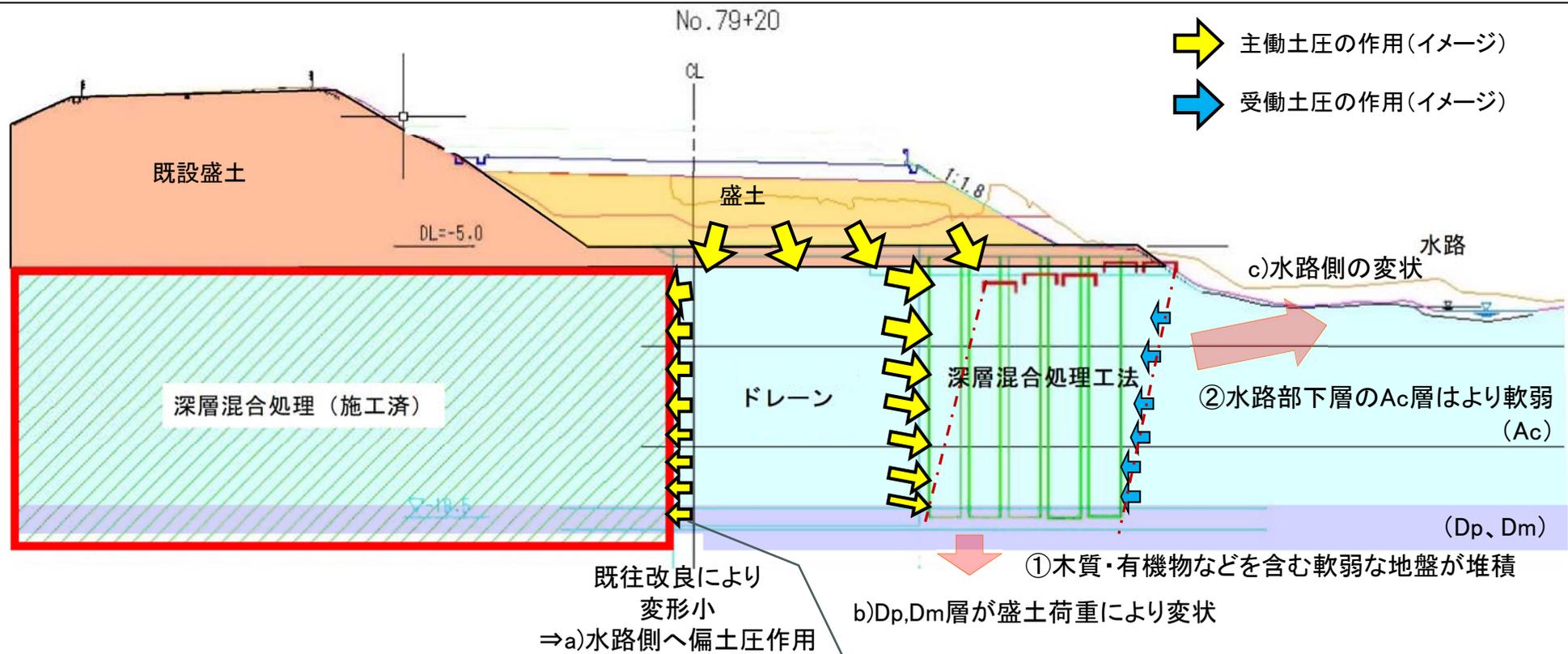
# 盛土の変状要因の推定

## < 想定される要因 >

- ①地盤改良体下層の深い位置に木質・有機物などを多く含む軟弱な地盤が堆積。
- ②水路部下層の沖積粘性土 (Ac層) がより軟弱であった。

## < 変状の誘因 >

- a) 道路盛土による偏土圧が深層混合処理部に作用した。
- b) 深層混合処理の下部に分布するDp,Dm層が変状を起こした。
- c) 水路部下層が軟弱で、改良杭の水路方向の変形に対して抵抗力が小さいため、変状が生じた。



想定される要因について(イメージ図)

○変状要因をふまえ、道路盛土時の沈下および安定に必要な対策を検討していく。

# 参考) 盛土の変状の発生状況

- 笠岡バイパスにおいて、路体盛土施工中に延長約100m、幅約40mの範囲で盛土に変状が発生。(令和6年1月11日)
- 側道(供用中)については、路面・盛土への影響は確認されなかったため、通行可能。
- 隣接する排水路には、隆起が見られるものの、通水の確認はできている状況。

